



知的集積産業へのシフトと新たな知的生産性の向上という現実

令和 8 年 1 月 10 日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

これら新たな産業と経済の現実は、産業革命という現実とともに、新たな知的生産性への移行をすべての産業において模索するものであり、それら現実が経済の格差を新たに与えることは真実である。

これらは知的エリートたちの新たな飛躍が産業構造の転換とともに存在するのである。それらは知的集積産業や知的生産性の拡大など、知性における飛躍を産業が共有するものであり、グローバルスタンダードはこれに準ずるものである。

これらは本質的な転換を産業や経済が有することであり、手工業という現実が新たな技術転換における新しい基準への転換を有するのである。

これらはデジタル経済への転換とともに、今日社会や生活に至るまで、その大きな変化を与えるものである。

これらは経済がこれら新たな現実の猛進することは必ずしも安全でないかもしれない。なぜならば経済はライフラインの維持を求められるからである。

しかし知的生産性の向上は新たな生産性や効率性における現実の飛躍的向上を与えるものであり、新たな豊かさの創造は今日これらエリートに独占されるものである。

これら現実は新たな社会システムへの転換を模索できるものであり、西洋の人道主義という現実はこれら課題へ立ち向かう必要性があるのかもしれない。

これら時代性への到達は、未来への参加であることは、自由経済システムにおいては真実である。

そのため企業は必死にこれら時代性におけるきぎゅの確立を要求されるものである。

これら現実に対して企業は未来の実現を模索するものであり、正しい視点と経営はそれを与えるもの枝るはずである。